

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：44405

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25284052

研究課題名(和文) 中日文化協会上海分会と関連文学者・文化人に関する基礎的・総合的研究

研究課題名(英文) A fundamental and synthetic study on the Shanghai branch of Chunichi-bunka Kyokai and writers or men of culture related with this organ.

研究代表者

竹松 良明 (TAKEMATSU, YOSHIAKI)

大阪学院大学短期大学部・経営実務科・教授

研究者番号：30249396

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,600,000円

研究成果の概要(和文)：戦時下の中国で日中文化交流に関わる最大の国策機関であった中日文化協会について、特に最も活動的であった中日文化協会上海分会を中心に、戦前期の第一次資料の確認および考察に当たった。研究成果としては、上海分会や南京の本部などの活動に関する第一次資料の収集。当初の研究計画にはなかった戦前期上海で発行された「上海日日新聞」の文芸・文化関係記事細目の作成。中日文化協会に関する考察および「上海日日新聞」細目作成を通して、その周辺に位置する日本人作家また文化人についての、上海における日本文学運動を軸とした研究論文の作成。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study is to investigate primary sources on the Shanghai branch of Chunichi-bunka Kyokai, which was the representative organ of national policy. The chief results of this study are as follows.

1, The collection of primary sources on the Shanghai branch of Chunichi-bunka Kyokai and the headquarters of this organ in Nanking. 2, To make the index of articles on literary and cultural field of Shanghai-nichinichi, that was a chief Japanese newspaper published in Shanghai. 3, To make papers on activities concerning Japanese literature in Shanghai.

研究分野：日本近代文学

キーワード：上海 中日文化協会 上海日日新聞 グレーゾーン

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来、中日文化協会に関する研究は中国国内では長くタブー視され、一方中日文化協会関連の一次資料が日本国内にはほとんど無いために、本格的な研究対象にされてこなかったのが実情である。

(2) 先行研究としては『上海中日文化協会研究・序説 現地新聞メディア掲載の協会関連記事一覧』(大橋毅彦・趙夢雲共著、2004年3月、私刊)と、趙夢雲「中日文化協会」に関する初歩的な考察(「植民地文化研究」4号、2005年7月)があり、その大橋・趙を含めた研究チームを結成して本格的な現地調査による資料収集と考察を企画した。

2. 研究の目的

(1) 中日文化協会上海分会、また南京の「総会」(=本部)などについて、主として上海および南京また揚子江流域の主要都市における図書館・档案馆の資料を調査・蒐集することで、従来ほとんど知られることのなかったこの文化機関の全体像を初めて提示する。

(2) さらに、国策下における文化領域での活動に対する先入観を拭い去った客観的な再評価を促し、一方では上海という特異な植民地的環境の中での文化交錯の実情について考察する。

(3) またこれに関連する日本文学者・文化人について、まだ調査されていない事跡を把握し、全体として当時の上海の文化的ネットワークの要の位置にも相当するこの文化機関の、中日文化交流史における存在意義について考察する。

3. 研究の方法

(1) 中日文化協会上海分会を中心に、南京総会や揚子江流域主要都市に置かれた分会・支会の活動状況を調査するために、上海・南京を始めとする複数の図書館・档案馆における資料格差を励行した。必要に応じて華中流域だけでなく旧満州地域の大連や長春での調査も計画に入れた。一方、中日文化協会に関係した日本人の文学者・文化人について、日本国内での文献についても調査研究する必要があり、国会図書館を中心に幅広い文献調査を推進した。

(2) 当初の研究計画にはなく、本研究期間が始まった平成25年4月から新たに追加された計画である「上海日日新聞」文芸・文化関係記事細目の作成については、本研究グループを中心に外部からの参加を含めた計11人で細目作成を分担した。「上海日日新聞」の国内所蔵分である1931年1月から8月、1933年5月から1937年4月までの計56ヶ月の文芸・文化関係記事細目の作成であるが、本研究メンバーの多くは、かつて大橋毅彦を研究代表者として、戦時下上海の日本語新聞「大陸新報」の研究(基盤研究B)のメンバーであり、その研究成果とし

て、『新聞で見る戦時上海の文化総覧「大陸新報」文芸文化記事細目』(ゆまに書房、2012年)を刊行した経験がある。

(3) 中日文化協会の活動に多少とも関わりのあった文学者としては、上海分会に奉職した武田泰淳、同じく同僚の石上玄一郎、他に田村俊子・窪川鶴次郎・阿部知二・高見順・堀田善衛・小林秀雄・川上徹太郎・久保田万太郎・久米正雄があり、僅かに距離を置いて池田克己・小泉譲・黒木清次・草野心平・内山完造の名が挙がるが、本研究メンバー各自は上記の文学者をめぐる自由な作家・作品研究を展開して、年間4回程度の定期的な研究会で発表し、その成果を学会誌・紀要などに随時発表してきた。また、以前から本研究グループと共同研究を進めてきた日本上海史研究会(本研究メンバーの一人である高綱博文が代表)との共同開催の形で、平成25年と27年に国際シンポジウムを開催してきた。

4. 研究成果

(1) 中日文化協会上海分会および南京総会(=本部)また揚子江流域の主要都市に置かれたいくつかの分会、支会の活動に関する一字資料の収集については、基本的に毎年の夏休みと春休みに参加可能なメンバーで現地調査旅行を催行してきた。平成25年8月末から9月初旬にかけて本研究メンバー中の5人で上海・杭州調査旅行を実施、上海図書館・徐家匯蔵書楼・浙江図書館(杭州)で中日文化協会関係資料を調査した。平成26年3月中旬に6人で上海・南京調査旅行を行い、上海図書館・徐家匯蔵書楼・南京図書館・南京第二档案馆で資料を調査した。平成26年9月初旬に7人で長春・ハルビン・大連調査旅行を行い、吉林大学図書館(長春)・ハルビン図書館・大連図書館で資料を調査した。平成27年3月中旬に5人で上海・南京調査旅行を行い、上海図書館・徐家匯蔵書楼・南京大学図書館・南京図書館・南京第二档案馆で資料を調査した。平成27年9月初旬に4人で上海・武漢調査旅行を行い、上海図書館・徐家匯蔵書楼・湖北省図書館・武漢図書館で資料を調査した。平成28年3月に4人で上海・蘇州調査旅行を行い、上海図書館・徐家匯蔵書楼・蘇州大学図書館・蘇州図書館で資料を調査した。上記の調査旅行によって各図書館では主に現地で発行されていた日本語雑誌の記事を通して中日文化協会の活動状況を把握することが可能となり、档案馆では日本語または中国語で記録された中日文化協会関連の文書を確認できたが、特に档案馆の文書は南京第二档案馆を筆頭にかなりの量の関係文書を所蔵していても現在閲覧可能な文書は限られており、資料的価値の高い文書はほとんど確認できていない。そのため、当初の計画であった中日文化協会関係資料集の刊行は今後の継続調査結果に託すこととなった。

(2)「上海日日新聞」文芸・文化関係記事細目の作成については、平成25年4月から本研究メンバーのうちの8人を含む計11人で分担して作成作業を開始した。採択の目安としての「大項目」は文学・映画・美術・音楽・演劇舞踊・教育・宗教・スポーツ・交通移動・衛生・出版新聞・上海日日新聞・広告・ラジオ・民団日本人倶楽部・同文書院・上海科学研究所・文化団体・文化の多岐にわたっている。当初の完成予定からは遅れたが、平成28年9月に榊丸善からDVDの形で頒布される予定である。

(3)中日文化協会の周辺をめぐる形での関連文学者に関する本研究メンバー個別の作家・作品論の成果は、基本的には年間4回ほど開かれる研究会で回り持ちの発表となるが、前記したように日本上海史研究会との共同研究の企図により、日本上海史研究会で発表する機会も少なくなかった。特に平成25年8月31日に上海の豊田紡績記念館で日本上海史研究会と我々の中日文化協会研究会が共同開催した国際シンポジウム「戦時上海におけるメディアと文化」は極めて盛況であった。さらに平成27年10月3日から4日に奈良大学で、上記の両研究会が共同開催した国際シンポジウム「戦時上海におけるメディア 文化的ポリテクスの視座から」では本研究メンバーのほとんどが発表し、その内容は平成28年10月に研文出版から刊行される論文集『戦時上海におけるメディア』に収録される。さらに、本研究メンバーのうちの半数は、勉強出版の「アジア遊学」の特集「戦時・上海・グレーゾーン(仮題)」に執筆して、平成28年12月刊行の予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計8件)

- 竹松良明、「花影」論 阿部知二と佐藤俊子その他、阿部知二研究、査読無、22号、2015、pp.18 - 29
- 山崎真紀子、田村(佐藤)俊子、行為体としての「女声」創刊 川から海へ、札幌大学総合研究、査読有、6号、2015、pp.27 - 51
- 山崎真紀子、田村(佐藤)俊子における「女声」「信箱」「余箱」を中心に(上)、札幌大学総合研究、査読有、7号、2015、pp.225 - 242
- 山崎真紀子、田村(佐藤)俊子における「女声」「信箱」「余箱」を中心に(下)、札幌大学総合研究、査読有、8号、2016、pp.62 - 104

- 大橋毅彦、初期「大陸往来」の一瞥(下) 戦時下上海における現地文学の種々相、日本文芸研究、査読無、67巻1号、2015、pp.1 - 26
- 戸塚麻子、日本占領下北京の青春と友情 長野賢(野中修・朝倉康)の「燕京文学」掲載小説をめぐる、滋賀文教短期大学紀要、査読無、18号、2016、pp.25 - 27
- 鈴木将久、日本占領下上海文化の「グレーゾーン」をどう考えるか、史潮、査読無、78号、2015、pp.25 - 43
- 高網博文、中日戦争下日本帝国向上海視線、査読無、2016年1号、2016年、pp.1 - 8

〔学会発表〕(計10件)

- 高網博文、中日戦争下日本帝国向上海視線、復旦大学上海史国際研究中心、招待講演、国際学会、2015年12月19日、復旦大学
- 高網博文、日中文化翻訳装置としての内山書店、日本大学大学院総合社会情報研究科、2016年2月22日、日本大学
- 高網博文、帝国日本の戦時上海への「まなざし」上海観光メディアを通して、日本上海史研究会・中日文化協会研究会、国際学会、2015年10月3日 4日、奈良大学
- 竹松良明、上海メディアにおける「上海日日新聞」の位置、日本上海史研究会・中日文化協会研究会、国際学会、2015年10月3日 4日、奈良大学
- 大橋毅彦、窓と繁星 文学者・室伏クララのために、日本上海史研究会・中日文化協会研究会、国際学会、2015年10月3日 4日、奈良大学
- 趙夢雲、日本占領期唯一共産党が指導した学生雑誌一戦時末期の「莘莘月刊」をめぐる、日本上海史研究会・中日文化協会研究会、国際学会、2015年10月3日 4日、奈良大学
- 山崎真紀子、田村(佐藤)俊子と上海、その帰結点としての「女声」、日本上海史研究会・中日文化協会研究会、国際学会、2015年10月3日 4日、奈良大学
- 関根真保、上海各メディアにみるユダヤ避難民と民族問題、日本上海史研究会・中日文化協会研究会、国際学会、2015年10月3日 4日、奈良大学
- 木田隆文、上海漫画クラブとその周辺 「大陸新報」掲載記事を手掛かりに、日本上海史研究会・中日文化協会研究会、国際学会、2015年10月3日 4日、奈良大学

大学

戸塚麻子、「大陸新報」連載小説にみる上海のグレーゾーン 小田嶽夫「黄鳥」を中心に、日本上海史研究会・中日文化協会研究会、国際学会、2015年10月3日4日、奈良大学

〔図書〕(計2件)

— 大橋毅彦、関根真保 他、勉誠出版、上海租界の劇場文化、2015、221p

— 竹松良明、高綱博文、大橋毅彦、趙夢雲、山崎真紀子、木田隆文、関根真保、戸塚麻子 他、研文出版、戦時上海のメディア、2016年(発行確定)、500p

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹松 良明 (TAKEMATSU Yoshiaki)
大阪学院大学・短期大学部経営実務科・教授
研究者番号：30249396

(2) 研究分担者

大橋 毅彦 (OHASHI Takehiko)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：60223921

趙 夢 雲 (CHOU Muun)
東大阪大学・こども学部・教授
研究者番号：80390152

鈴木 将久 (SUZUKI Masahisa)
一橋大学・言語社会研究科・教授
研究者番号：00298043

山崎 真紀子 (YAMASAKI Makiko)
札幌大学・法学部・教授
研究者番号：00364208

木田 隆文 (KIDA Takahumi)
奈良大学・文学部・准教授
研究者番号：80440882

関根 真保 (SEKINE Maho)
立命館大学・言語教育センター・外国語嘱託教師
研究者番号：20708698

戸塚 麻子 (TOTSUKA Asako)
滋賀文教短期大学・国文学科・准教授
研究者番号：10711450

高綱 博文 (TAKATSUNA Hirohumi)
日本大学・通信教育学部・教授
研究者番号：90154799